



証券コード 5020

2022年8月12日

ENEOSホールディングス 2022年度 第1四半期決算説明資料

常務執行役員 田中 聡一郎

決算ハイライト

P 2

事業環境

P 4

2022年度 第1四半期決算 概況

P 7

参考情報

P 14

決算ハイライト

決算ハイライト

2022年度
第1四半期
実績

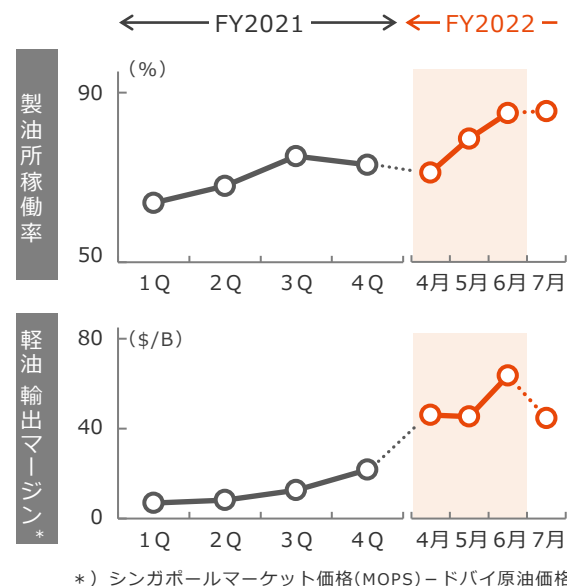
	前年同期		実績	差異	[5月公表] 通期見通し
営業利益	1,620 億円	▶	3,253 億円	+1,633 億円	3,400 億円
在庫影響除き 営業利益	745 億円	▶	1,172 億円	+427 億円	3,400 億円

■ 在庫影響

- ✓ 油価上昇や円安により在庫影響は大幅増加 (+1,206 億円)

■ 在庫影響除き営業利益

- ✓ 3月に発生した地震影響が継続したものの、製油所稼働率は前年同期比で改善、輸出数量が増加
- ✓ また、金属事業の先端素材は引き続き好調
- ✓ 一方、増益の主因はアジア輸出市況の高騰や、プラスのタイムラグを含む油価上昇影響、円安などの環境要因



2022年度
通期見通し

■ 5月公表を据え置き

- ✓ 年度計画に対する在庫影響除き営業利益の実績は34%に達しているが、今後の資源価格や新型コロナウイルス感染再拡大などの不確定要素を勘案

事業環境

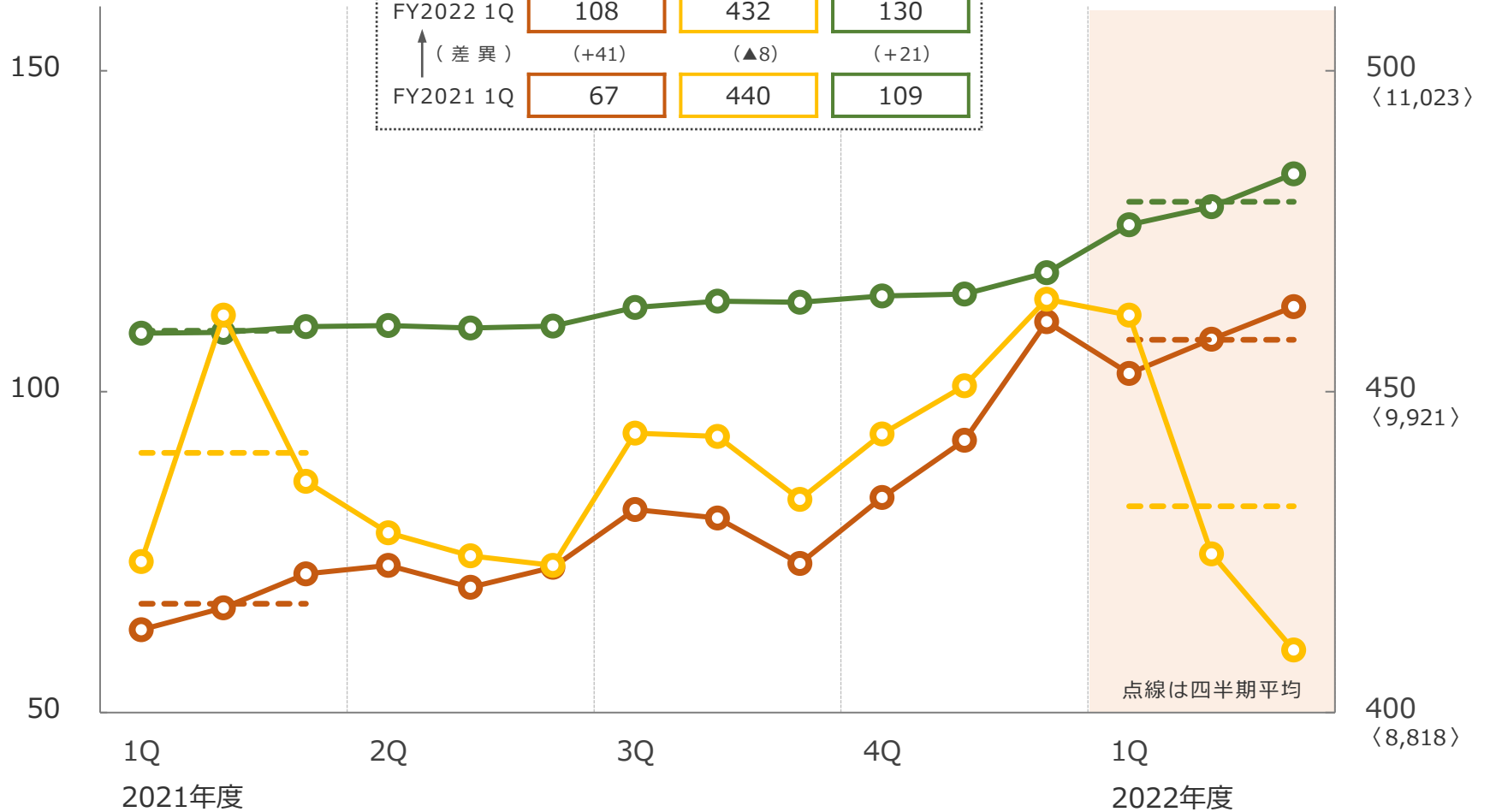
原油価格・銅価格・為替レート



ドバイ原油 (\$/B)
為替レート (¥/\$)

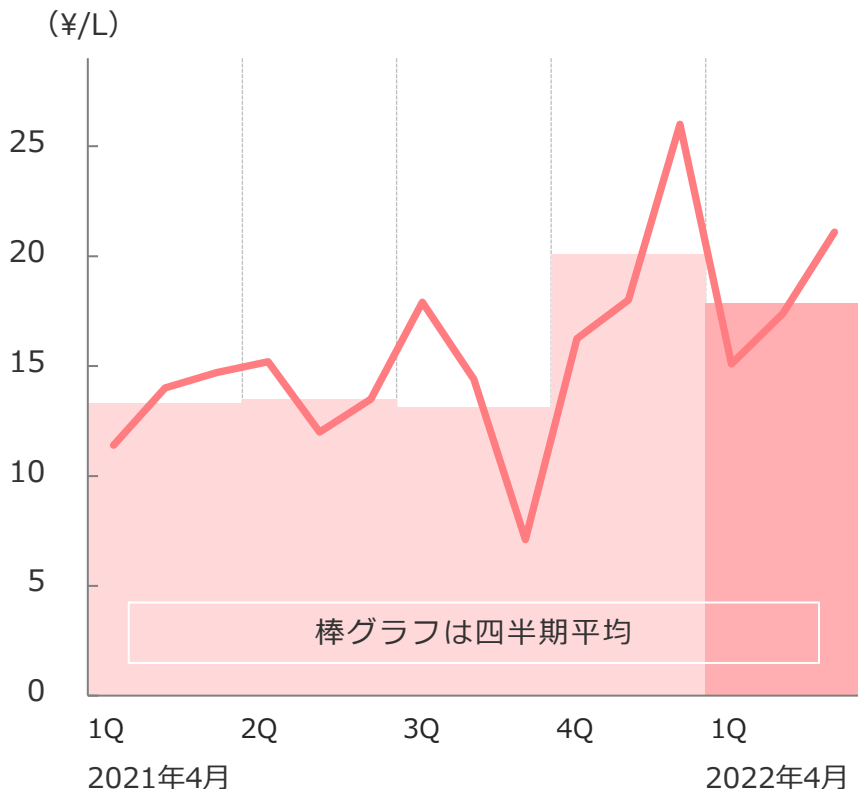
銅 価 (¢/lb)
(\$/ton)

	ドバイ原油	銅 (LME)	為替レート
FY2022 1Q	108	432	130
↑ (差異)	(+41)	(▲8)	(+21)
FY2021 1Q	67	440	109

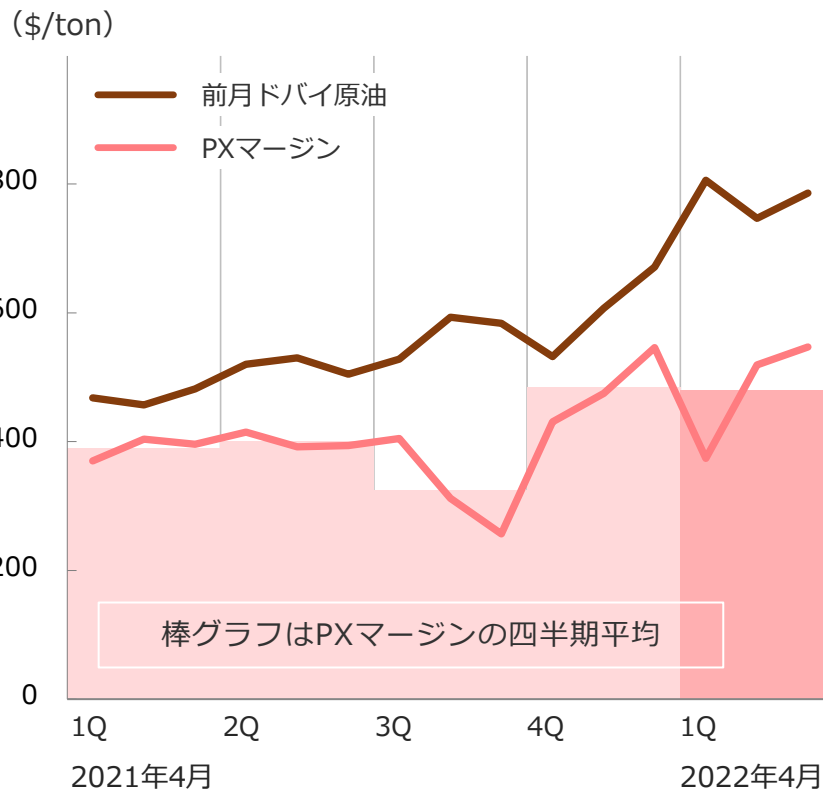


白油 4 品・パラキシレンマーゼン指標

白油 4 品マーゼン指標 *1



パラキシレン (PX) マーゼン指標 *3



▶ タイムラグ*2影響を主因として、前年同期比で良化

*1 国内市況の参考値として、以下の計算式により算出
 スポット価格 - 全国通関原油CIF (石油税・金利含み)

*2 石油製品の売価は足元の原油価格が反映される一方、原油コストはおよそ1か月前に購入した原油価格が反映されることにより、売価とコストに一時的な値差が生じる影響

▶ 中国における需給緩和の影響を受け、低位で推移

*3 アジア市況の参考値として、以下の計算式により算出
 ACP (Asian Contract Price) - 前月ドバイ原油
 未決の月はスポット価格の平均値を使用

※) これらの指標は当社のマーゼン (当社売価 - 当社コスト) とは異なります

2022年度 第1四半期決算 概況

(2022年4月1日～2022年6月30日)

決算概要

		FY2021 1Q (実績)	FY2022 1Q (実績)	差異	
■ 諸元					
ドバイ原油	(\$/B)	67	108	+41	+61%
銅 (LME)	(¢/lb)	440	432	▲8	▲2%
為替レート	(¥/\$)	109	130	+21	+19%
■ 損益計算書					
売上高	(億円)	22,241	35,551	+13,310	+60%
営業利益	(億円)	1,620	3,253	+1,633	+101%
在庫影響	(億円)	875	2,081	+1,206	+138%
在庫影響除き営業利益	(億円)	745	1,172	+427	+57%
税引前利益	(億円)	1,572	3,320	+1,748	+111%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	(億円)	976	2,214	+1,238	+127%

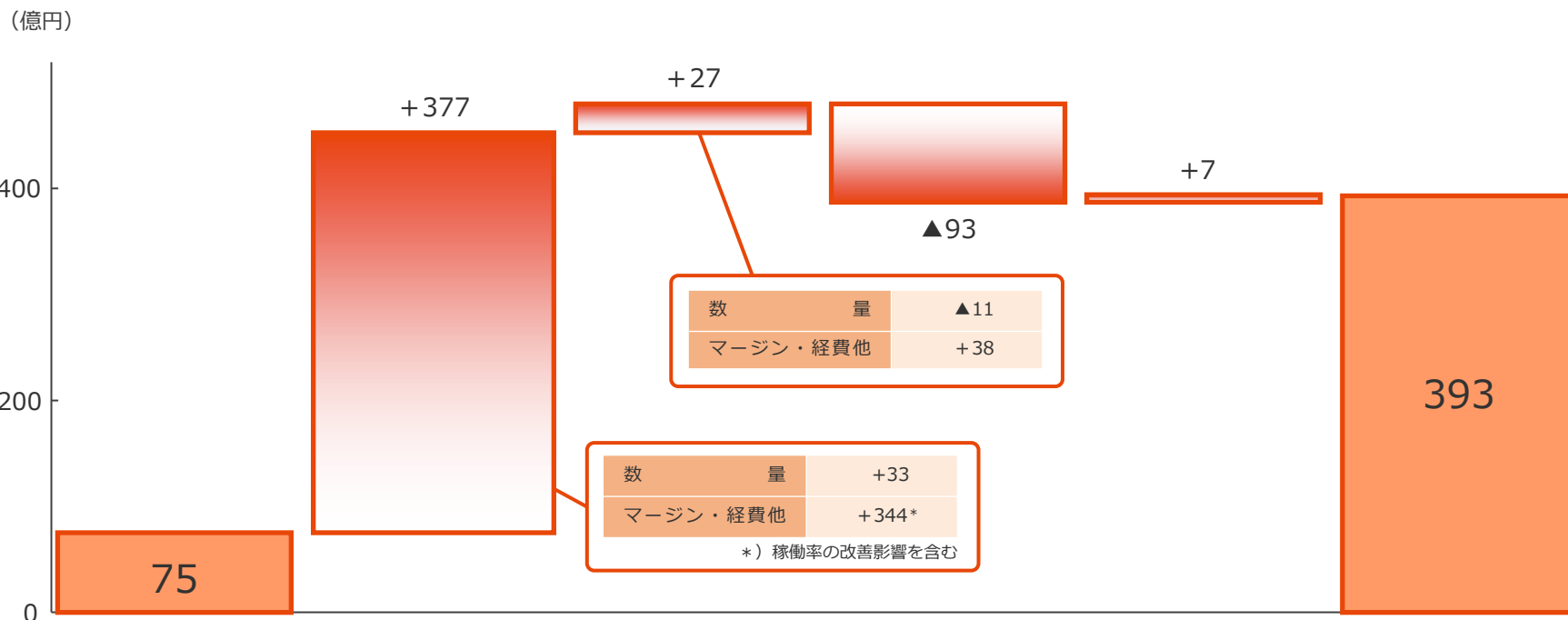
セグメント別営業利益

		FY2021 1Q (実績)	FY2022 1Q (実績)	差異	
(億円)					
在庫影響除き営業利益 計		745	1,172	+427	+57%
セグメント別	エネルギー事業	950	2,474	+1,524	+161%
	在庫影響	875	2,081	+1,206	+138%
	在庫影響除き営業利益	75	393	+318	+424%
	石油製品他	▲4	373	+377	-
	石油化学製品	37	64	+27	+73%
	電力	3	▲90	▲93	-
	素材	39	46	+7	+18%
	石油・天然ガス開発事業	153	279	+126	+83%
	金属事業	408	411	+3	+1%
	機能材料・薄膜材料他	137	208	+71	+52%
	資源	153	135	▲18	▲12%
	製錬・リサイクル	86	97	+11	+13%
	事業共通費用等	32	▲29	▲61	-
その他	109	89	▲20	▲19%	

エネルギー事業（在庫影響除き営業利益増減）

FY2021 1Q (実績)	エネルギー事業 +318 (75→393)				FY2022 1Q (実績)
	石油製品 他 +377 (▲4→373)	石油化学製品 +27 (37→64)	電力 ▲93 (3→▲90)	素材 +7 (39→46)	

3月に発生地震の影響が継続したものの、製油所稼働率は前年比で改善。加えて、原油価格上昇に伴うタイムラグや、アジア輸出市況の高騰などによる白油・輸出マージンの良化もあり増益



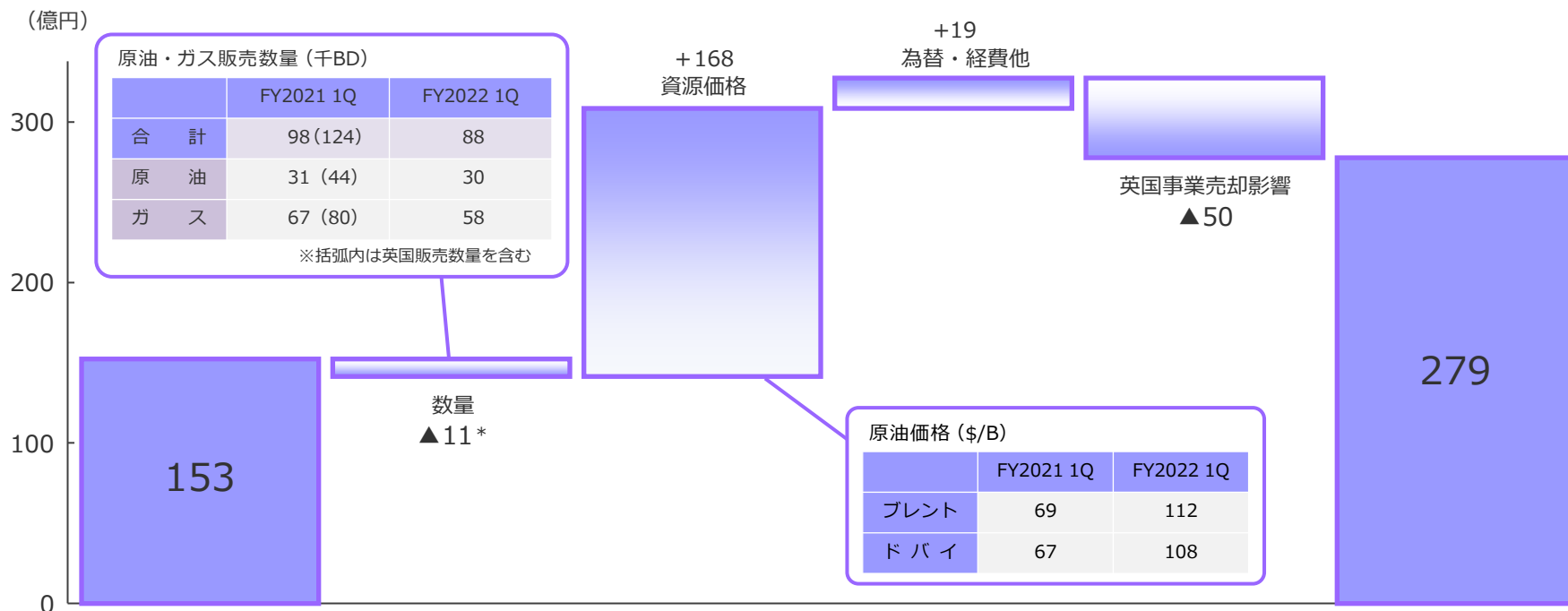
石油・天然ガス開発事業（営業利益増減）

FY2021 1Q
(実績)

石油・天然ガス開発事業 +126 (153→279)

FY2022 1Q
(実績)

英国事業売却に伴う前期計上利益の剥落があるものの、資源価格上昇および円安影響により、増益

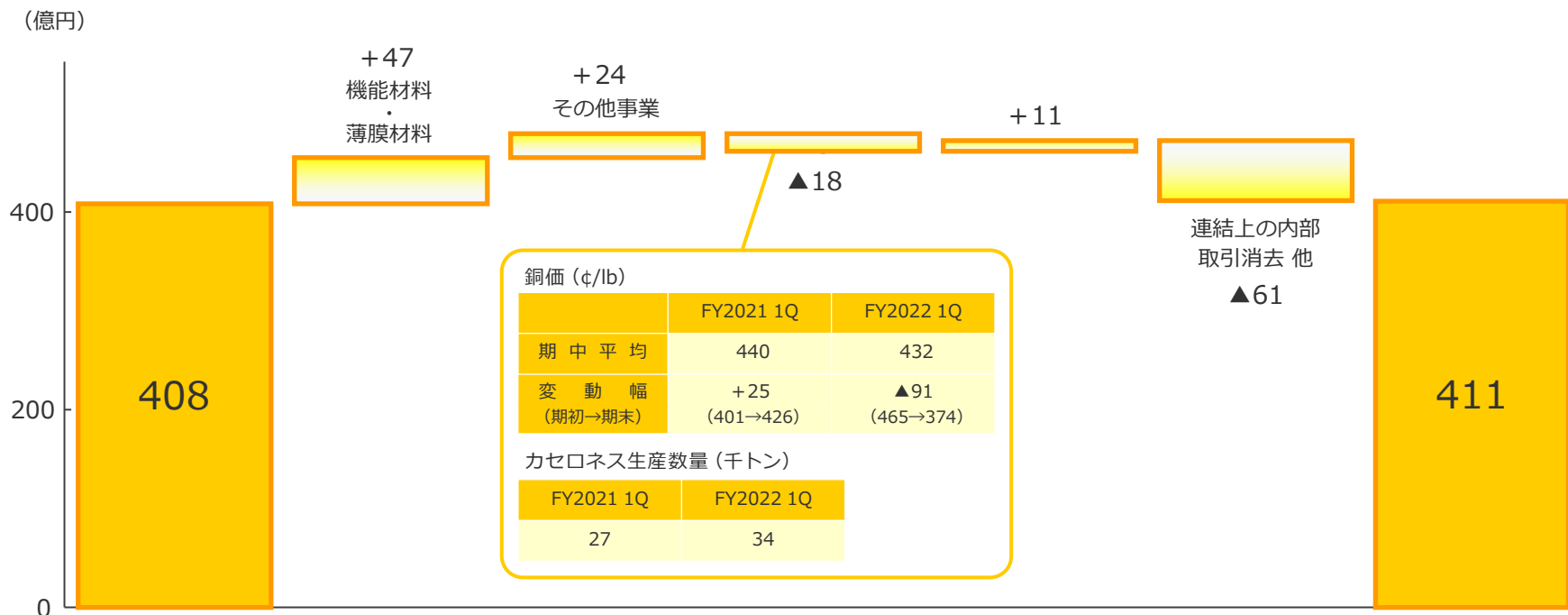


*) 英国販売数量除き

金属事業（営業利益増減）

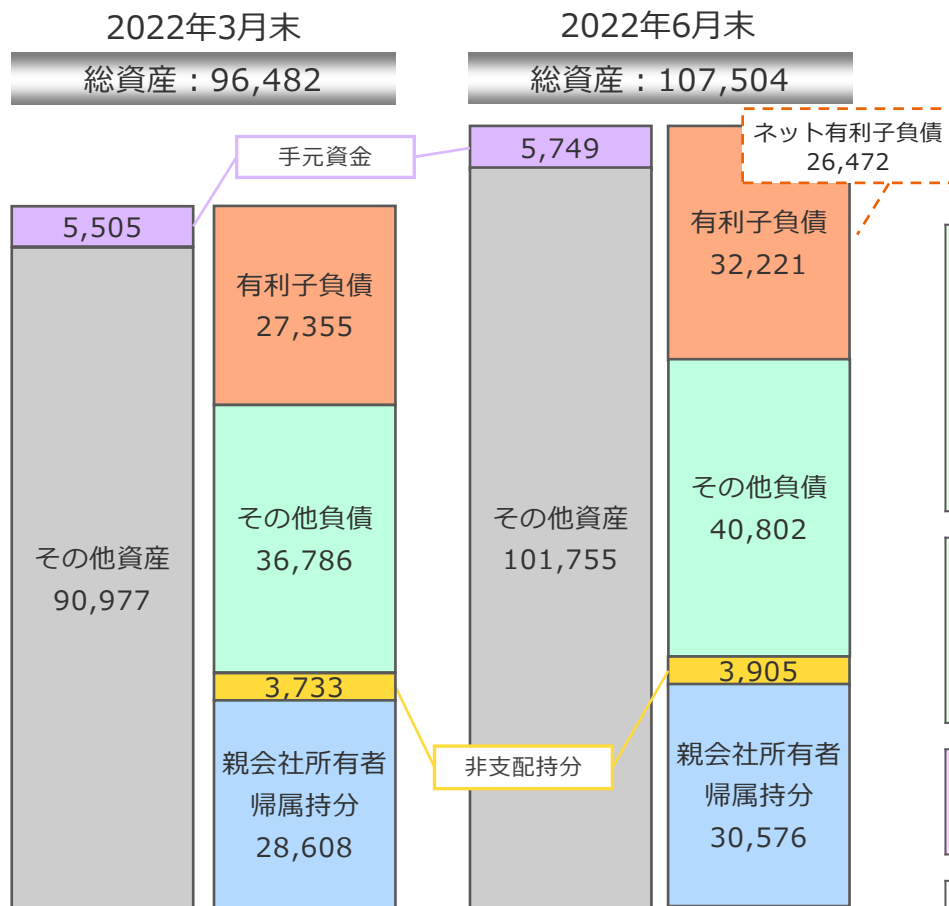
FY2021 1Q (実績)	金属事業 +3 (408→411)				FY2022 1Q (実績)
	機能材料・薄膜材料他 +71 (137→208)	資源 ▲18 (153→135)	製錬・リサイクル +11 (86→97)	事業共通費用等 ▲61 (32→▲29)	

機能材料・薄膜材料他は円安影響、販売数量増を主因に増益、資源ではカセロネス銅鉱山の生産数量が増加したものの、銅価下落を主因に減益となり、全体では微増



連結バランスシート / 連結キャッシュフロー

連結バランスシート



連結キャッシュフロー

	FY2022 1Q (実績)	
	財務会計ベース	IFRS第16号 「リース」適用除き
営業利益 (在庫影響除き)	1,172	1,172
減価償却費	860	649
運転資金増減 他	▲3,476	▲3,476
営業キャッシュフロー (休日影響除き)	▲1,444 (▲2,341)	▲1,655 (▲2,552)
設備投融资	▲1,367	▲1,367
その他	135	135
投資キャッシュフロー	▲1,232	▲1,232
フリーキャッシュフロー (休日影響除き)	▲2,676 (▲3,573)	▲2,887 (▲3,784)
配当 他	▲1,285	▲1,074
ネットキャッシュフロー (休日影響除き)	▲3,961 (▲4,858)	▲3,961 (▲4,858)

	2022年3月末	2022年6月末
親会社所有者帰属持分比率	29.7 %	28.4 %
ネットD/Eレシオ* —資本合計ベース—	0.68 (0.60)	0.77 (0.69)

*) 括弧内はハイブリッド社債資本性調整後 (3,000億円の50%を資本算入)

参考情報

前提条件

		FY2021		FY2022	
		1Q	通期	1Q	通期
		実績	実績	実績	見通し (5月公表)
共通	為替レート (¥/\$)	109	112	130	120
エネルギー	ドバイ原油 (\$/B)	67	78	108	90
石油・天然ガス開発	原油換算販売数量*1 (千B/日)	98	93	88	87
	ブレント原油 (\$/B)	69	80	112	92
金属	銅 (LME) (¢/lb)	440	440	432	420*3
	銅鉱山権益生産量*2 (千トン/年)	48	195	50	243
	PPC銅販売量 (千トン/年)	148	586	150	647
	精密圧延品生産品販売量 (千トン/月)	3.9	3.9	3.7	3.9

* 1) 2021年度以降、英国事業除き * 2)

	通期
カセロネス	4月～3月
ロス・ペランプレス	4月～3月
エスコンディーダ	1月～12月

* 3) 2022年4-6月： 450
2022年7月以降： 410

■ 諸元の変動による2022年度営業利益への影響額（2022年4月以降）

		(億円)	
項目	変動幅	変動項目	影響額
ドバイ原油	5\$/B 上昇	エネルギー	(-) 40
		石油・天然ガス開発	(+) 70
		小計	(+) 30
		在庫影響	(+) 390
		合計	(+) 420
銅 (LME)	10¢/lb 上昇	金属	(+) 50
		合計	(+) 50
為替レート	5¥/\$ 円安	エネルギー	(+) 60
		石油・天然ガス開発	(+) 30
		金属	(+) 90
		小計	(+) 180
		在庫影響	(+) 290
合計	(+) 470		

2022年4月以降の主なトピックス

（競争力強化）
基盤

<事業ポートフォリオの見直し>

- ✓ ミャンマーの石油・天然ガス開発事業の撤退を決定
- ✓ 韓国の銅製錬事業者 (LS-Nikko Copper Inc.) の株式売却を決定

2022年5月 公表

2022年5月 公表

素材・新サービス

<技術立脚型事業の獲得・拡大>

素材(エネルギーセグメント)

- ✓ ENEOSマテリアルでのエラストマー事業が始動

2022年4月 始動

素材(金属セグメント)

- ✓ ナノワイヤー成長技術・製造装置の開発を手掛けるNanoWired GmbHへの出資を決定

2022年7月 公表

<新サービスの推進>

- ✓ イクシスとロボティクスを活用したプラント等の保守点検サービス事業に関する協業検討を開始

2022年6月 公表

次世代型エネルギー供給・環境対応

<次世代型エネルギーの供給拠点・ネットワークの構築>

- ✓ 日本電気株式会社 (NEC) から取得した電気自動車充電サービス事業の運営を開始
- ✓ 清水製油所跡地を中心とする次世代型エネルギー供給拠点・ネットワークの構築を決定

2022年6月 開始

2022年8月 公表

<次世代燃料の事業化検討>

- ✓ TotalEnergiesと持続可能な航空燃料 (SAF) の製造に関する事業化調査を開始

2022年4月 公表

<水素サプライチェーンの構築>

- ✓ アラブ首長国連邦-日本間のクリーン水素サプライチェーン構築に向けた協業検討を開始

2022年6月 公表

<環境対応型事業の推進>

金属リサイクル

- ✓ ドイツ国内のLiBリサイクル技術開発コンソーシアム"HVBatCycle"へ参画
- ✓ E-waste(廃家電・廃電子機器)回収・処理事業者 eCycle Solutions Inc.の全株式を取得

2022年6月 公表

2022年8月 公表

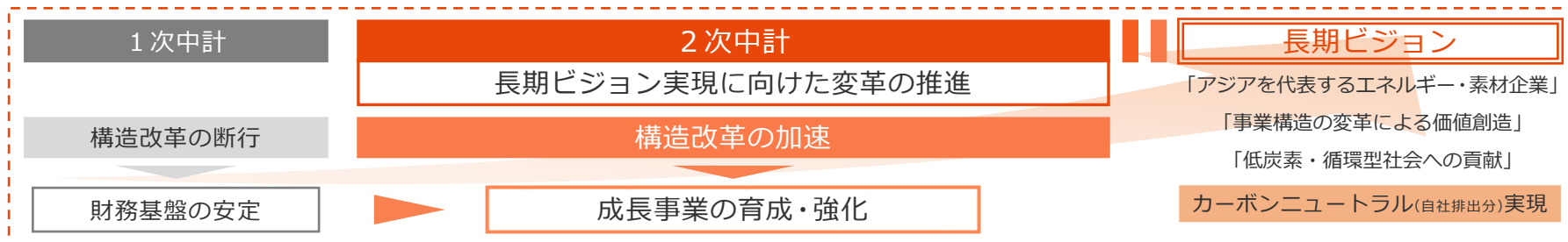
<その他>

- ✓ ENEOSグループのカーボンニュートラル計画を新たに策定
- ✓ 国内初のトランジション・リンク・ボンドの発行を決定

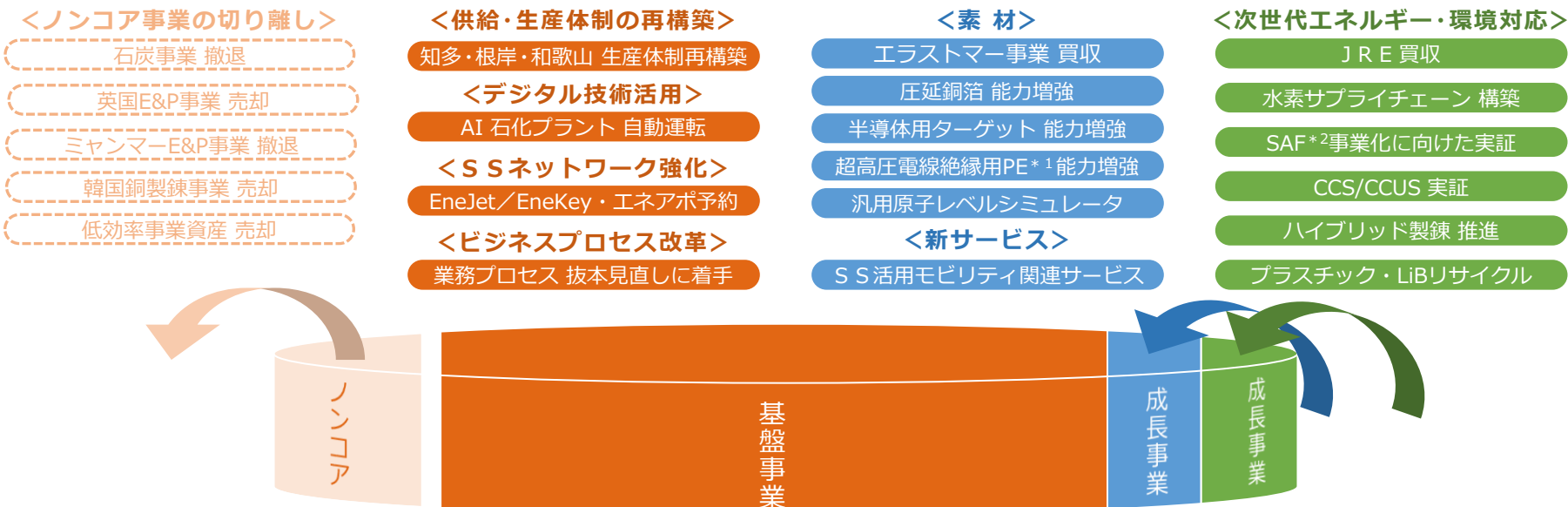
2022年5月 公表

2022年5月 公表

■ 基盤事業の競争力強化、成長事業の育成・強化、複数のM&A・資産売却を合わせた事業ポートフォリオ戦略を実行



トランジション



ENEOSグループ

* 1) ポリエチレン * 2) Sustainable Aviation Fuel : 持続可能な航空燃料

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。

かかる要因としては、

- (1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化
- (2) 新型コロナウイルス感染症による経済活動への影響
- (3) 法律の改正や規制の強化
- (4) 訴訟等のリスク など

が含まれますが、これらに限定されるものではありません。